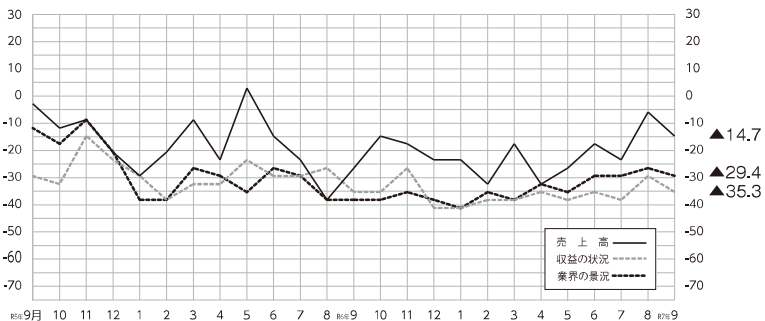




情報連絡員報告

DI(景気動向指数)



業界の状況

- ☀️ ...好転
- ☁️ ...不変
- ☔️ ...悪化



なし

テントシート	原材料の高騰について、販売価格への転嫁ができつつあると思われる。製品の値上げは落ち着いた雰囲気だが、まだまだ厳しい状況である。
木製品素材生産	9月期の原木出材量は、減少気味となっており、丸太価格についても、引き合いはあるものの、製材品の動きがあまり良くなく全体的に横ばい状況。今後、天候等も安定してくるため出材量が増えてくると思われるが、原木価格は市況の動向が悪く大きな変動は見込めない状況。
建具	個人住宅・店舗等の仕事は少なかった。公共工事で、学校のトイレ等の改修工事が少しあった。
製紙(家庭紙)	紙製品全体の販売金額及び販売量は前年同月比で上回ったが、生産量は前年同月比で下回った。その中で衛生用紙は、販売金額及び販売量が前年同月比で上回った。雑種紙においては、販売金額は前年同月比で上回ったが、販売量が前年同月比で下回った。
製紙(手すき和紙)	原材料・諸経費の高騰は続いている。販売価格への転換も一向に落ち着かない状態であり、消費者の購買欲も厳しくなっている。情勢も不安定な状態が続いており、まだまだ厳しい状況である。
生コンクリート製造	9月度の組合員の単月出荷量は、対前年比79.3%、4月からの累計出荷量も対前年比82.5%で引き続き低調であった。単月出荷量は、中部・高幡地区は増加傾向にあるが、その他の地区は減少傾向にある。4月からの累計出荷量も単月と同様な傾向にある。
コンクリート製品	対前年同月比125.1%。前年度と比較すると出荷量は多くなっているが、平年並みの状況である。今後もこの傾向が続くと推測している。
刃物製造	当月は、入荷状況と付属品などの入荷もタイミングが良く、売上を伸ばすことができた。海外への出荷は、先月よりアメリカへの発送が国際郵便(EMS)の受付停止により、困っている状況である。
機械団地	団地内の業況は特に変化は見られず、売上・収益とも横ばいで推移している。小規模・零細事業所では、賃金増に苦慮しながら慢性的な人手不足が続いている。
船舶製造	9月は大型の案件があり売上高は増加した。製品価格は4%程度改定を行った。
珊瑚装飾品製造	9月度の取引額は前年同月比で126%となり、5カ月連続で前年を上回る結果となった。
卸団地	人員の確保が難しい中、物価高により基本給アップが十分にできない会社が多く、悩ましい状況。景気回復は感じられない。温暖化・物価高など環境変化が激しく対応が困難である。
生鮮魚介卸売	黒潮の影響か、例年と入荷する魚が変化している。とりあえず、サンマは質も量も好調だった。カツオはサイズがバラバラだが美味しいものが揃っている。冬に向けて、次はブリかな？
電気機械器具小売	9月度は、全製品平均で102.6%。白物家電が101.6%、リフォーム関連が金額で前年比106%。4K8K大画面テレビが前年比96%であった。

中古自動車小売	高騰相場の常態化により、展示車両や注文車の仕入れの厳しい状況が続いている。来客数・問い合わせ件数が前年と比べ増加している。
商店街(高知市)	9月の駐車場利用台数は、前年同月比98.7%(324台減)となり、わずかに減少した。一方で、料金収入は前年の104.1%(338千円)と増加しており、定期(月ぎめ)収入が要因として考えられる。人流カメラの集計による9月の来街者は、前年同月比1.7%増となった。特に帯屋町2丁目では7.2%と高い伸びを示している。また、前年は10月上旬に開催した「高知大道芸フェス」を、本年は9月27日・28日に開催したことも来街者増加の一因と見られる。特に日曜日は多くの来街者で賑わい、商店街全体に活気が見られた。9月のクルーズ船の入港数は8隻で、前年の2隻から大幅に増加した。これに伴い、免税売上も前年を大きく上回る結果となった。入港当日は午前中から多くの外国人観光客が商店街を訪れ、にぎわいを見た。
商店街(四万十市)	『よさこい四万十』には59チームに参加いただいた。時間や演舞のローテーション等、細部まで改良を重ねた。商工会青年部・実行委員・高校生ボランティアの皆さんのご協力に感謝したい。
旅館・ホテル	9月の宿泊は少々停滞。10月以降の団体受入れも弱気みである。個人客の伸びに期待。宴会は予約受注が堅調に伸びてきている。
飲食店	先月に引き続き本月上高で前年同月をやや上回った。売上高増加の要因としては、まず販売価格の上昇があり、集客は横ばいから微増の間。そして原料費・光熱費・人件費等の上昇幅は更に大きく、業界の価格転嫁は十分ではないため、収益が好転するまでには至らない。前年度同月に比べて更に物価は高騰。光熱費・仕入価格・人件費、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
旅行業	組合クーポン前年同月対比116%、全旅クーポン合算後、前年同月対比118%。9月までの総売上は、前年同月対比110%。緩やかに売上が増加しているが、見通しは楽観できないと考える。
IT事業	今月の売上は前年同月を上回ったものの、前月からは減少し、大口案件の反動が見られた。それでも全体としては回復基調を維持しており、安定した受注環境が整いつつある点は明るい材料である。過去数年と比べても底を打ち、上向きの兆しが見え始めている。既存取引先からの継続受注も堅調で、持続的な成長を支える要因となりそうだ。回復基調を確かなものとするためには、既存顧客との関係強化に加え、新たな需要の開拓にも取り組むことが重要である。また、設立20周年を迎える本年は、培ってきた信頼と経験をもとに、組合員一人一人が力を結集し、さらなる発展へつなげていきたい。
電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比41.5%となった。高知中央地区が前年同月比33.8%、香長地区が22.2%となったことが影響している。
一般貨物自動車運送	燃料価格がジリジリと値上がりしている。燃料販売会社のカルテル問題、軽油価格の指針となる大手組合の燃料事業からの撤退など今後の燃料価格への懸念材料が多く出てきて、繁忙期の価格上昇が心配される。
タクシー	実働1日1車当りの前年同月対比運送収入:106.8%、回数:106.2%、実働率:49.2%。大型客船が毎日のように新港に寄港している。多くのお客様が乗船されていると、タクシーの要請があるが、残念ながら期待に添えなく、運転者不足に相俟わず頭を痛めている。

食品団地	9月度県内市況は、やや低調。県外市況も昨年を若干下回る状況であった。原材料の値上がりが続く、12月からは最低賃金上昇するため、食品業界では再度の商品価格値上げを検討しており、10月から年末にかけて値上げが続くと見られる。収益の好転はまだまだ先のことになりそうである。
酒類製造	原料等原価の高騰による製品価格の改定も行われているが、今後の消費への影響が懸念される。
製材	輸送コストが上昇しており、取引条件は更に厳しくなっている。
印刷	先月に引き続き、売上減少・操業度低下と厳しい結果になった。特に県内需要が振るわなかった。ペーパーレスでの需要減少、また原材料等の高騰により経営的に厳しい状況が継続している。
青果卸売	9月の取扱高は組合員全体で前年対比89.4%となった。前月よりは落ち込み幅は少ないが、依然として厳しい状況。今年1月から9月までの累計でも93.4%となり、上昇の兆しは見えない。
各種小売(四万十町)	9月は夏のイベントも一段落し、連休はあるものの落ち着いた。地域への道路客・観光客の流入は好調であるが、地域の小売店等への影響は少ない。個店の業況は様々で、事業者毎に利益確保の施策を模索している。
ガソリンスタンド	9月の新補助額は10,0円となり政府の補助金限度額丁度となっている。政府からは暫定税率廃止の話も新総裁が決まらないうと進む様子はないが、決定すれば年内に暫定税率は廃止になる可能性はある。25.1円の暫定税率中10円は現在補助が出ており、残り15.1円の減額となるが分割一括か方法の発表ははまだない。
商店街(安芸市)	今年も敬老の日に合わせて、安芸地区にお住まいの高齢者を対象に安芸本町商店街限定商品券を発行した。
クリーニング	暑い日が続き、秋の衣替え需要が始まらないため、需要は減少傾向のままだ。消費者の節約志向は続いており、資材価格は徐々に値上げ、エネルギー価格も高止まりしている。度々の価格転嫁には踏み切れず、この厳しい状態が続けば存続を心配する声もある。県内地域によっては、クリーニング所が存在しない、いわゆるクリーニング難民が拡大する恐れがある。一方リネン業界は好調を維持しており、一部の業者では人手不足に苦慮している。
一般土木建築工事	先月に引き続き高知県の発注工事が減少傾向である。